

放射線治療科

臨床実習Ⅱ（2週間型）

研修プログラム

概要

統計では日本人の死因のうち3分の1が癌とされています。放射線治療は外科手術、抗癌剤治療とあわせ癌治療の3本柱の1つとされています。今後高齢化社会が進行していくことから癌患者数も増加していくと考えられます。その中で高齢であったり、内科的合併症のため外科手術、抗癌剤治療が困難な患者も増加していくことが予想されます。放射線治療はそういった患者に対する治療として他の治療とくらべ負担が少ないことから選択肢に上がってくる可能性が高いと考えます。また、癌治療のすべてのステージで考慮される治療法です。

当院では広島市北部だけではなく、広く県北、島根県までの診療圏があり、高齢化社会を先取りしたような地域環境から市内中心部に位置する病院とは患者層が多少異なる印象を持たれるかもしれません。

当院で可能な放射線治療として通常の外部照射と前立腺癌のIMRTを行っています。治療期間中の患者の様子や、放射線治療のながれ、治療計画の様子などを見学していただく予定です。

I. 実習到達目標

- (1) 地域医療の中でのがん診療拠点病院の役割を理解する。
- (2) 様々な癌患者の診療を理解する。
- (3) 他科との連携を深める。
- (4) 癌患者の社会的背景、精神的背景を理解する。
- (5) 癌患者の症状緩和を理解する。
- (6) 放射線治療の適応を理解する。
- (7) 放射線治療の副作用と対策を理解する。

II. 実習方法

- (1) オリエンテーション；実習開始日に放射線科外来と病棟で行う。
- (2) 外来見学；放射線治療のながれ、治療患者の診察を見学する。
- (3) 病棟見学；入院患者の診察、管理を見学する。
- (4) 治療計画；放射線治療計画を見学する。
- (5) カンファレンス；放射線治療に関するカンファレンス、カンサーボードに参加する。

Ⅲ. 指導体制

- (1) 桐生 浩司 ; 放射線治療科主任部長
- (2) 大西 圭一 ; 放射線治療科医師

Ⅳ. 評価

実習、見学態度を総合的に評価する。